

セルフメディケーションの推進

国策とすべく取り組みを進める

少子高齢化が進み、医療費が高騰を続けている中、医療制度の改革が早晩必要になる可能性が指摘されている。その改革の1つとして挙げられるのが、日本チェーンドラッグストア協会(JACDS)が推進している「セルフメディケーション」になるだろう。

JACDSは昨年9月に主催したセルフメディケーションに関するフォーラムで、「これまでの“治す医療”から“支える医療”へ転換を目指し、医師や看護師、薬剤師のほか多くの医療従事者がチームで患者を支えていこう」と提案した。支える医療を今後展開していく上では、セルフメディケーションの推進が必須だという考えだ。

そのような中、ドラッグストアに対しては、セルフメディケーションの受け皿になる必要性が指摘されている。地域生活者の最も身近な存在であるド

ラッグストアが、地域生活者の健康維持・増進に関する役割を果たし、貢献していくことが期待されている。

セルフメディケーションについては、その推進を「国策として位置づけるべき」という声も数多く挙がっている。その結果、2013年度予算案ではセルフメディケーションの推進に関連する予算が盛り込まれた。

こうした状況を受けてJACDSの関口信行会長はセルフメディケーションの重要性に関して、「国民皆保険制度が崩壊の危機にある中、今後は少子

ドラッグストア編

高齢化も進み、総医療費がどんどん増加していくという危機感がある。そうした危機をセルフメディケーションで支えていかなければならないと考えている」と指摘。その上で「予算化されることによって厚生労働省がきちんと後押しをしてくれる、厚労省がドラッグストアの後押しをしてくれることになるのだと信じている」との考えを示すと

共に、「セルフメディケーション推進にあたり法改正するには、政治の力が重要」とし、JACDSとJACDS政治連盟とで力を合わせ、取り組みを進めていく方針を示している。

そのほかにもセルフメディケーション推進のための取り組みとしてJACDSでは、今年3月15～17日の3日間、千葉市の幕張メッセで第13回「JAPANドラッグストアショー」を開催する。今回のテーマは「夢ふくらむドラッグストアの進化～セルフメディケーションで街に元気を！家族に元気を！」としている。「美と健康に関するアジア最大級の祭典」として、セルフメディケーションの啓発・推進を目指す考えだ。

さらに現在、今月31日までの期間で「健康(セルメ)川柳コンクール」と題した作品の募集も行っている。セルフメディケーションや健康づくり、自身、家族、高齢者、知人などの健康を題材にした作品を受け付けている。大賞賞金100万円(1人)、準大賞賞金30万円(1人)となっており、そのほかにも、JACDS会長賞(1人)やセルフメディケーションアワード実行委員長賞なども用意されている。第13回ドラッグストアショーの会場内で表彰イベントを実施する予定だ。

マツモトキヨシホールディングス

石橋良次さん



視野を広げ無限の可能性に挑戦を

た石橋さんが、学生時代に海外へ出て人と接するようになり、個人の特徴が出る接客という仕事に魅力を見出した。また、当時放送された同社を扱ったテレビ番組を見て、年功序列ではなく意欲のある人に仕事を任せられるという社風を目の当たりにしたことも同社を志望する理由になったという。

同社に入社してからの約4年半は茨城県と福島県の店舗に配属となり、茨城県の3店舗目と福島県の店舗では店長を務めた。「地域に密着した店舗で、自分目当てに来ていただけるお客様を増やすように努めま

した。その結果、例えば病院へ行く前に自分のところへ相談に来てくれたり、地域の情報をお客様の方から教えていただいたり、地域の皆さんが気軽に来られる店作りを目指し、実際にそれができたと思います」と指摘。「人との交流、地域との交流ができたことは、ドラッグストアならではの魅力でした」と振り返る。

石橋さんは店舗勤務の後、人事部採用課に異動となり、現在は9年目に入っている。現在の仕事については、「採用を担当しているの、学生や中途志望者に同社の魅力を伝え、最終的に入社していただき、現在、いろいろな部署で活躍している人が多い。そうした姿を見ることが、

やりがいであり、自分のモチベーションにもつながっています」と語る。

仕事や職場を選ぶ際のポイントに関しては、「現在は薬学を学んだ学生が活躍できるフィールドはいろいろとあると思うので、可能性を縮めるのではなく、視野を広げて自分の目で確かめることが必要」とする。また、「仕事を始めると、やりたいことや今まで見えなかったことが出てくるので、いろいろな可能性を持った職場や仕事を選んだ方がいいと思います」と指摘する。

その上で、「学生の皆さんの可能性は無限大なので、その無限大の可能性にチャレンジしてほしいです」とエールを送る。

マツモトキヨシホールディングスに勤める石橋良次さんは、店舗勤務を経て現在は人事部で採用を担当している薬剤師だ。1999年に九州大学薬学部を卒業し、卒業後は1年間、南極など海外をめぐるバックパッカーとして過ごした。同社への入社は00年4月だ。

研究者を志望して薬学部に入社し



ver. Future

～つねに、一歩先へ～

マツキヨグループの調剤事業、さらに進化中。

急速な高齢化社会の進展を背景に増加する医療費を抑制するため、医療の一翼を担うドラッグストアの役割は、ますます重要視されています。このような社会環境の変化をとらえ、マツモトキヨシホールディングスでは、より高い専門性をもとに医療機関と連携した様々な医療分野への進出・調剤事業のさらなる拡大を目的とした調剤専門会社「マツモトキヨシファーマシーズ」を設立しました。私たちマツモトキヨシも、地域に密着した「かかりつけ薬局」として、マツモトキヨシファーマシーズとのシナジー創出を図り、今まで以上に調剤事業を強化していくことで、お客様・患者様により高いご満足を提供していきたいと考えています。

薬剤師
(新卒&中途)
募集中!

株式会社マツモトキヨシ
〒270-8521 千葉県松戸市新松戸 1-483
【応募者専用フリーダイヤル】0120-047-300
<http://www.r-matsukiyo.com/>